

序

超高齢化社会の到来により、どこでも、誰でも高齢者糖尿病を診る時代となっている。こうした高齢者糖尿病の治療で苦労するのは、75歳以上の後期高齢者が多く、身体機能や認知機能が低下し、糖尿病治療で重要なセルフケアである内服やインスリン注射ができなくなることである。また、糖尿病だけでなく、老化や他の疾患により生活機能が低下し、自立した生活を送ることができなくなることも大きな問題となる。

こうした高齢の糖尿病患者を診るためには、老年医学的なアプローチが必須である。すなわち、認知症、ADL低下、転倒などの老年症候群を評価し、心身機能や社会状況を含めた高齢者総合機能評価（CGA）を多くの職種で分担して行うことが必要である。本書では高齢糖尿病患者の診かたを診察法、診断、合併症、老年症候群、CGAの方法を含めて解説した。

高齢者糖尿病の治療は、合併症の予防だけでなく、身体機能やQOLの維持・向上を目的として、血糖などの治療目標や治療法を個別に選択する。また、こうした治療は、薬物療法だけでなく、運動療法、栄養サポート、心理サポート、社会サポート、患者教育など包括的なチーム治療が必要となる。したがって、本書では、この高齢者糖尿病の治療を医師だけでなく看護師、薬剤師、栄養士、運動指導士にも執筆を担当していただいた。

本書で触れられた高齢者糖尿病の治療の考え方やノウハウは当センター内分泌科の初代医長の折茂 肇先生（現、東京都健康長寿医療センター 名誉院長）から受け継がれてきたものである。また、当センター2代目の内分泌科部長で恩師の井藤英喜先生（現、東京都健康長寿医療センター センター長）が主導された高齢者糖尿病の介入研究であるJ-EDIT研究の成果も含まれている。また、執筆にご協力いただいた先生は高齢者糖尿病の診療や研究について一緒に考えていただいている仲間でもある。あらためてこうした諸先生方のご指導とご協力に感謝申し上げます。

本書を読んでいただいて、少しでも高齢者糖尿病の診療のお役に立てることができれば幸いである。

2014年12月

東京都健康長寿医療センター 糖尿病・代謝・内分泌内科
荒木 厚